



## 日本カトリック海外宣教者を支援する会

## 巻頭言

## 東ティモールとともに

聖心侍女修道会 管区長 深澤光代

東ティモールでミSSIONナリーとして生活する二人のシスターが、昨年の秋と冬にかけて久しぶりに日本を訪れました。シスター中村葉子とシスター西川久美で、パンデミックのため訪問が伸び、4年後の帰国でした。この二人のシスターの日本滞在は、わたしたち聖心侍女修道会の日本管区のシスター達にとって真に恵みの時となりました。

東ティモールはわたしたちにとって特別な国です。東ティモールの独立以前からシスター中村はこの国を熱心に支援していましたし、独立後修道院が出来てからは、清泉の生徒や卒業生、シスター達が様々なかたちでこの国の人たちと共に歩んで来たからです。東ティモールは昨年、独立20年を祝いましたが、わたしたちの会は今年創立20年を迎えます。創立の際には、わたしもシスター中村と一緒に土地や家を探して山岳地帯に出掛けたり、司教様に挨拶に行ったりしたため、この国は忘れられない思い出の地となりました。

東ティモールはインドネシアとオーストラリアの間に位置する小さな島国で、長野県ほどの国土に130万の人が暮らしています。この国の独立に反対するインドネシアからの弾圧によって、20万の人が命を落としたにもかかわらず、東ティモールは自力で独立を獲得しました。

## ♥♥もくじ♥♥

巻頭言	1
第87回運営委員会議事録	2
宣教者からのお便り	4
ザ・メッセージ・ECHO	9
宣教者のお話を聞く会	13
連載「海外宣教」	17
各国からのクリスマスカード	19
新入会員・事務局より	20



これは彼らにとって大きな誇りであると同時に、彼らがどのような人であるのかを知る大事な鍵です。

シスター中村とシスター西川は日本滞在中に様々な話をしてくれました。そして、二人を見て強く感じたのは、彼女達が如何に東ティモールとその人達を愛しているかということです。シスター中村は、自分は東ティモールに「はまった」のだと言っていました。彼らを愛さずにはいられない理由があるのです。東ティモールの人達は、簡素で素朴な生活をし、贅沢は求めない。助け合いの精神を持っていて、互いに助け合う。そのため、ホームレスはいない。自分達の力不足を自覚し、謙虚である。そして、根気強く、困難に耐えて生活しています。勿論、すべてが理想的とは言えませんが、皆、素晴らしい価値観のもとに生きているのは確かです。

現在、東ティモールにはわたしたちの修道会の共同体が三つあり、アルゼンチン、スペイン、ポルトガル、インド、ベトナム、フィリピン、日本、そして東ティモール等、8ヶ国出身の24名のシスターが生活しています。創立者の聖ラファエラ・マリアは、「わたしたちの会は、教会のように、世界的なものでなければなりません。」と言っていました。東ティモールの共同体は正に「多文化共生」の共同体です。使徒活動としては、首都のディリに学生寮、低栄養児のためのセンターがあり、学習支援、語学教育も行われています。ディリから車で一時間半ほどの山の上にあるバサルテテでは幼稚園での教育に携わると同時に教区立の小学校を担当しています。ディリとバサルテテの中間に位置するカサイでは若いシスターたちが将来の使徒活動に備えて勉強中です。シスター達は、これらの活動を通して、多くの方々と共に神の愛を生き、伝えたいと願っています。

昨年ある新聞が社説の中で、独立後の東ティモールが治安の安定を保っていることを高く評価しているのを読んで嬉しくなりました。経済的にはまだまだ脆弱な国ですが、ASEANへの正式な加盟の日も近づき、平和のうちにさらに発展することが期待されています。わたしたちも今までのように東ティモールを応援し、ともに歩んで行きたいと思います。東ティモールの人々から学び、東ティモールのために出来ることを行いつつ。

## □■□ 第87回運営委員会議事録 □■□

日 時：2022年12月10日（土） 13:30～14:20

場 所：聖フランシスコ修道会 修道院2階会議室

参 加：運営委員7名 リモート1名

議 事

### I. 「きずな」161号について

編集者から→161号については、山野内司教、村上会長から原稿をいただき、充実した内容の掲載が出来た。事務局訪問はなかったが今後期待したい。

## II. 「きずな」162号について

巻頭言：シスター深澤 光代（聖心侍女修道会）管区長に依頼した。

## III. 援助申請

- ・11月30日現在援助申請無し。
- ・東テイモールの中村葉子シスターより援助金使用報告を受領、添付資料各自確認願う。  
幼児教育施設、マタノバ・ダレ幼稚園改築、コロナ禍休園もあったが現在も進行中。  
'23年1月正式活動再開。

## IV. その他

- ・支援する会、波多野光男運営委員が12月7日早朝、病のため帰天された。突然のことで、運営委員会において村上会長に死者のためのお祈りをお願いして皆で祈った。時を見て会よりお花をお送りしたい。
- ・事務所雑誌発送 11月29日ボランティア1名にて 海外宣教者のために雑誌発送 43通
- ・国内きずな会員、その他に業者発送 2,850通
- ・事務所海外発送 12月2日ボランティア3人で
  - きずな海外宣教者へ発送 110通
  - 国内きずな部数大口会員など 119通
- ・ボランティアがクリスマスカードに宛名とひとことを書き添え、全海外宣教者に送付
- ・各教区司教、引退司教、各教区事務局長にクリスマスカードを送付
- ・お話し会 11月19日報告：菊地功大司教、要約原稿162号に掲載予定、依頼済
- ・事務局時間給値上げについて：今現在事務局一人体制なので、都に合わせて上げるのも良いが、業務改善としてアルバイトの事務局員を一人雇いたい。詳細は未定。賛成多数
- ・カトリック新聞社広告料について2020年9月掲載分未払いとの連絡を2022年の10月に受信したため、今年度の予算から支払った。2期の期越しであった。次年度から新聞広告は年三回掲載とする。
- ・本日から新運営委員としてイエスのカリタス修道女会、谷口美帆シスターにご出席いただき、自己紹介。  
これから宜しく願いたい。
- ・事務所は12月24日～2023年1月5日までお休み

次回運営委員会は3月11日13時半より





# 宣教者からのお便り



ハイチ

◆ポルトープランス◆

## カリブ海に浮かぶ小さな島からこんにちは！

ショファイユの幼きイエズス修道会 日 置 マリエ

ハイチを検索すると、面積は北海道の3分の1程。植民地としてフランスに支配されていた歴史がありますが1840年に世界初の黒人国家として独立したパワフルな国と紹介されています。地理はアメリカの南部、マイアミの下にキューバがありその右隣りに位置している島国です。言語は、フランス語が公用語ですが現地の人々は当地の言葉、クレオール語を使っています。

当修道会のコミノテが誕生したのは2017年で翌年には3人の共同体で模索を続ける中、3年後には二人の志願者を迎える事ができました。現在は養成担当者のシスター、フランス人を中心に日本人の私、そして、二人のハイチ人のプレノビスが修練に臨んでいます。

ハイチに来て間もない頃、ある施設で出会ったハイチ人のシスターから「ハイチで学ぶべきことは何でしょう？」と質問されました。思いつくままに現地の言葉、文化、習慣などと答えましたら彼女は、人差し指を横に振って「忍耐、忍耐、そして忍耐」と強調して仰いました。ことごとくスムーズに事が運ばない日常の生活では、確かに忍耐が強いられます。しばらくは、イヤ、今でもこのセリフが合言葉のように口か

らこぼれ出ます。

国の治安はかなり悪いです。リーダーの存在しないことは大きな問題です。誘拐事件やギャングによる暴動で道路が遮断され、全ての機関が閉鎖されます。ガソリンを購入できなくなることもしばしばです。そうなると皆どこまでも歩きます。人々は、与えられた状況の中で淡々と逞しく生きています。

日常のさり気ないあいづちのなかに「神のお陰で」とか「神が望めば」や「お互い今、ここに」と言うのがあります。御手の中で生かされている事、お互い兄弟として生きている事を感じさせられる福音的な表現に感動を覚えます。

コミノテでは、フランス、日本、ハイチと文化や習慣の違いを超えて織りなす共同生活をここハイチで生きています。「忍耐」を肝に銘じつつ。

台湾

◆南投◆

## 教会の中で、人々と共に歩む毎日

マリアの宣教者フランシスコ修道会 青木青子

今年は私が日本を離れて25年、そしてこの台湾の小さな村に派遣されて8年目を迎えます。この25年間修道者として、そして日本人として神様が望まれる自分の使命と役割は何かを模索してきました。

私は現在台湾の地図のほぼ真ん中、四方山

に囲まれたプヌン族の村に住んでいます。台湾はいわゆる中国人が96.42%を占めるのですが2.48%の原住民—もともと台湾に住んでいた人々がいます。プヌン族は16もの民族の中で狩猟を副業とし八部合音で有名な民族です。この村は日本統治時代に高い山からこの地に移動させられてきた歴史から始まります。カトリック教会は1957年にメリノール会の神父様が自ら村の人々と共に聖堂を建築し、村民の半分が入信。その10年後診療所を開設するため私達の修道会が呼ばれました。私は2004年、修道会に入会される志願者の養成のために、台北から引越してきた時はまるでほかの国に来たような感覚を若い志願者と共に味わったものです。村には私の幼い頃にどこか重なる懐かしい静かな時間が流れていて、驚くことにその雰囲気は今も変わりません。一日に5本しかないバス、銀行はおろか郵便局もセブンイレブンもなく、そして今でも水を山からパイプを繋いでそれぞれの家が引いているという生活をしています。書いたらきりが無いのですが、都会の生活しか知らない私には非常に新鮮で幸せな3年間で与えるより受けることの多いミッションでした。

8年前に再びここに戻ってきて、信者さんたちの喜びや悲しみにもっと深く関わるようになるにつれ私達シスターや教会に何を期待しているのかと考えるようになりました。何人かの信者さんに直接尋ねました。予想外の答えが“教会を自分達信者で運営するためのサポート”でした。この60年間あまりシスター方は教会のあらゆる仕事に加えて診療所、学生の宿舎運営、そして1999年のあの大きな地震と2002年の台風で沢山の人の命と土地建物が破壊された後

たちあげたハーブガーデン、とその時々の一歩に添って身を粉にして働いてきました。教区の中で注目され、村人から深い信頼は得たものの、信仰と教会運営の面で人々はどれだけ成長できたのだろうかと反省するきっかけをいただきました。ほとんどミサに参加しないのに冠婚葬祭と赤ちゃんの洗礼には忠実な信者さん、墮胎は選ばず責任を取って結婚するもののおまういかず離婚する若者、お酒に負けて一家を顧み



12/24 恒例のたいまつを手にしてクリスマスキャロル



12/25のレクリエーションで賞品をもってポーズする子供たち



私達の教会、小さな村の中で観光地になっています

ない父親や母親などなど信仰が生活の選びに結び付いていない現実が見えます。そんな訳でこの数年教会の様々な仕事のリーダーを養成することを心がけてきました。つつい説明するのが面倒で自分で処理してしまったり、相手に考えさせずすぐアドバイスしてしまったりところらも養成されています。私は特に青年たちに同伴し教会のリーダー養成と信仰教育や結婚講座、そして財務の責任をシスターから信者さんに渡せるように日々奮闘中です。青年たちが少しずつ自分の意見を大人の前でも発言するようになり、失敗を重ねながらも責任を投げ出さなくなったことに大きな希望と喜びを感じています。

目の前に広がる美しい自然を眺めながら、この地で人々の中にすでにおられ、もっと私たちのうちにコミットメントされたい神に、私たちがもっと深く出会えるように祈りつつ毎日を送っています。多くの修道会と同じく会員の減少という現実の中で、この地でのミッションを継続するかどうか今年は識別する時を迎えています。自由な心で決定を受けられることができますように、そして“信徒の教会”に変貌されてゆく歩みを続けられますようにお祈りください。

東ティモール ◆ディリ◆

## 幼稚園が正式に再開

聖心侍女修道会 中村 葉子

私はコロナで4年間一時帰国ができなかったため、この度、帰国し、日本に滞在しています。

この帰国時に、遅れている Mana Lu の幼稚園

園改築工事の報告をいたします。

Mana Lu は「コロナで建築工事も遅れがちですが、ほぼ完成した建物はすでに子供たちの活動のために使われており、来年1月からは幼稚園を正式に再開できる運びとなりました。



ほぼ完成した幼稚園で



活動を楽しむ園児たち



植物で描いた模様

報告書には幼稚園の写真がありますが、他の子供たちのための活動を同じ施設で別の活動のためにも使わせて頂いています。ご支援に心から感謝申し上げます

ブラジル ◆モジ・ダス・クルゼス◆

## ナタナエルの喜びを

コンヴェンツァル聖フランシスコ修道会 松尾 繁 詞

シスター赤塚に預けてくださったプレゼントを無事受け取りました。有難うございます。

シスター赤塚と山本神父と私が一緒に集まって、プレゼント（援助金）を渡すことが出来ました。宛名を確認中は三人で、うれしくなってニコリしています。

ブラジルにも又、パンデミックが戻って来た感じです。マスクをつけ始めました。大統領選挙がいまだにくすぶっています。1月の就任式、その後が危ぶまれています。お祈りください。

クリスマスの喜びを申し上げながら、感謝のうちに



シスター赤塚洋美、山本伊三男神父、松尾繁詞神父

東ティモール ◆ディリ◆

## コンテナの教室

聖マリア修道女会 荒井 祥 恵

素晴らしい四輪駆動車を手に入れたことで、より簡単に山へ行くことができるようになったのです。島の市街地から離れているため余り便利ではない地域でも、周囲の人が必要としてい



研修所内部



研修所外観



輪になって活動をする子供たち



美味しそうに食べる子供たち



勉強に励む子供たち



楽しそうに食事をする様子

る色々な活動を提供しやすくなっています。かなり広いスペースがあり、そこにコンテナをいくつか設置し、司牧活動を行うことができるようになりました。このコンテナには、近々オープンする予定の共同体のチャペルも設置する予定です。

高校を終えた若者の多くは、大学に行くためには首都まで行かなければならず、そのためには、多額のお金が必要なため、勉強を続けるこ

とができません。そこで、若者への配慮と召命司牧を優先させたいという思いから、教育助手を希望する女子を対象にした研修所を始めることにしました。すでに研修生の募集を開始しており、1月中には開講できるようにしたいと考えています。

このクリスマスが、私たち一人ひとりにとって、幼いイエスが、すべての人々、特に私たちの身近にいる人々の苦しみや喜びとともに、簡素に生きることを教えてくれる時でありますように。

チャド ◆ライ◆

## 穴あけ修理を実施

ショファイユの幼きイエズス修道会 平 静 代

寮の学生や幼稚園児が使用する手動式ポンプ2基の鉄管が錆びて綺麗な水が出なくなりました。腐食しない管に取り替えましたので、お蔭様で水がきれいになりました。

ありがとうございました。



透き通った水が出るように



工具を使っでの作業



二人掛かりでの作業



ザ・メッセージ (海外短信)

☆タイ バンコク

聖パウロ女子修道会 阿部羊子

「救い主のご降誕と喜びと祝福をすべての人々にお祈りいたします。不自由な状況が続きますが、いかがお過ごしですか？きっと工夫しながら宣教にお励みのことと思います。皆様のお祈りに励まされながら、おかげ様で28年目のクリスマスを迎えます。心から感謝いたします。いつもタイの空から眺めて祈っていますが、世界の大変な状況を思い、憂い喜びを皆様と共に心配してお祈り捧げております。

今年も主の厩の主のみ前にぬかずく恵みに心から感謝です。胸のうちには今までになく募る思いがあり、内面生活に祈りの縋りをつけるこの頃です。長引くコロナ禍での宣教生活は、確かに困難で生活のきりつめが必要ですが、姉妹

たちと助け合いながら過ごしています。

院長交代があり、タイ人の最初の姉妹が今共同体の責任者、新規まき直して新たに出発しました。現在はタイ人2人、フィリピン人2人と私の5人。課題はたくさんありますが、聖霊の導きを信じ前進していきます。皆さまを思いうかべながらこのお便りを書いています。来年は是非帰省したいと願っています。

新しい年、主の恵み豊かな祝福とお導きをお祈りいたします。いつも通信と雑誌やこころのともしびを送ってくださりありがとうございます。ずい分長い間日本に帰っていませんが、来年は是非と願っています。」

☆ブラジル サンパウロ

イエスのカリタス修道女会 浦川道子他

「クリスマスと新年のおよろこびを申し上げ

ます。年間を通してカトリック書籍、きずなを送ってくださってありがとうございます。みなさまのお働きに励みと力をいただいております。2023年世界に平和がおとずれますように。」

#### ☆韓国

##### 御聖体の宣教クララ修道会

山崎三恵子、小川和子

「いつもきずなとカトリック生活、新聞などをお送り下さいまして、有難うございます。うれしく読ませていただいております。皆様のお仕事の上に豊かな実りがありますようお祈りいたします。」2022 クリスマス

#### ☆ボリビア サンタクルス

##### イエスのカリタス修道女会 立石順子

「2022年、ボリビアでは、新型コロナウイルス感染症の脅威も薄らぐ中、様々な出来事、困難や、社会紛争で不安な日々もありましたが、神様とファティマの聖母の保護と多くの方々に支えられて、約50名の子供たちが、大きな怪我や病気もなく、健やかな日々を過ごせました。

ところで現代のクリスマスは、華やかで、楽しく、賑やかで、心がウキウキしますね。最初のご降誕は、どんな様子だったのでしょうか？聖書物語の聖家族は、多くの困難に遭遇していますが、神様の導きに従って、乗り越えていきます。オガールファティマ乳児院の夜も暗く静かですが、赤ちゃんや子どもたちの寝顔を見たり、寝息を聞いたりすると心に温かい灯がともるようです。

皆様のご家庭に、愛と笑顔の花が咲きますように。遠く離れていますが、オガールファティマ乳児院一同、心からの感謝と祈りをこめて。」

#### ☆ブラジル ロンドリーナ

##### ルチア 菊地麗子

「クリスマスと新年のお喜びを申し上げます。いつもカトリック生活をお送り下さいまして心から感謝しております。大変うれしく読ませていただいています。又日本語のわかる方々にまわしています。皆喜んでます。

新年も皆様お元気で活躍をお祈り申し上げます。」

#### ☆ドイツ デュッセルドルフ

##### 聖パウロ女子修道会 比護キクエ

ドイツで迎えるクリスマスも、今年で最後となりました。この37年間、お祈りとさまざまなご支援で私のドイツでの宣教生活を支えてくださった皆様に、心から感謝申し上げます。

新しい年も主の恵みのうちにどうぞお元気で。デュッセルドルフにて祈りと感謝のうちに。

#### ☆オーストラリア シドニー

##### 聖パウロ女子修道会 松本 恵

新年あけましておめでとうございます。「きずな」160号と、クリスマスと新年のご挨拶状同封の161号が2週間ほど前に届いていたのですが、年末から新年に向け、8人の共同体のうち4人が次から次へとコロナに感染し、私も3番目に感染して、かなり気分が優れなかったために、お礼が遅くなりました。

そちらはまだまだ寒いようですので、皆様、お身体に気を付けてお過ごしください。

#### ☆東ティモール メハラ

##### 聖母訪問会 橋田百合子

初めてお便りいたします。毎年「きずな」をお送りくださってありがとうございます。海外で宣教されている方々のお便りで励まされてい

ます。

ところで、私たちの姉妹、シスター梅本玲子は日本に帰国いたしました。日本人としては私、橋田百合子のみです。

私たちが住んでいる、東ティモール メハラ村も発展してきています。今年には各家に水が届くように水道工事が行われています。今まだ共同水道です。壊れればそのまま遠くまで水汲みに行かねばならず生活の苦勞の一つです。各家庭に早く水が届くようにと願っています。また幼稚園舎も建設中、中学校校舎も1棟増築中です。プラスチックやその他のゴミ処理が課題の一つです。ゴミがきちんと処理されて、道路、庭、広場 家周辺にゴミがない美しい村になりますように。家庭でも花を育てるようにと私たちは希望者に花の苗や種を分けています。経済的發展と共に自然も守られていきますようにと協力し合っていきたいです。



◇会の皆さまご苦勞さまに存じます。この度生涯を全うした親友が私のためにこのお金を残してゆきました。お役に立てて下されば幸いです。彼女もよろこぶと思います。

(長野県松本市…山田 満喜)

◇お世話になっております。少額ですが献金いたします。お祈りいたします。

(東京都調布市…ノートルダム修道会)

◇✠感謝です。(東京都練馬区…豊島 究)

◇この一年を共に感謝して、お祈りいたします。

(東京都西東京市…クリスト・ロア修道会)

◇皆様のお役に立てば幸いです。

(東京都中野区…篠岡 淑子)

クリスマスが近づいてきました。若者たちが馬小屋づくりを始めています。皆様の奉仕が福音宣教になりイエズスが人々に届きますように祝福を願いつつ…… 感謝を込めて

☆マダガスカル アンタナナリブ

マリアの宣教者フランシスコ修道会 平間理子

2月の始めにきずなの160と161号及びクリスマスカードを受け取りました。有り難うございました。マダガスカルでは昨年JMJが行われましたが最終日の次の日に主催していた司教様が急死しました。元々持病があった様ですが無理をして主催した様です。マダガスカル全土から2,000人近くが集まりましたので……でも今年に入り2箇所で司教様の就任式が行われました。2箇所ともマダガスカルの北方ですが信者にとって嬉しく良いニュースです。こちらの信者の信仰を強め又深めますようにお祈りして下さい。今年もよろしくお願い致します。

◇「きずな」161号をお送り下さりありがとうございます。夢中で記事を読みました。

(千葉県習志野市…東田 裕子)

◇感謝 (千葉県松戸市…平松 裕子)

◇✠主の平安 厳しい環境で宣教をされる皆様の安全とご健康を心からお祈りいたします。キリストの御言葉が多くの人につたえられますように。(北海道室蘭市…松岡 健一・博子)

◇クリスマス献金

(広島県広島市…ノートルダム清心中・高等学校)

◇迎える年も神様の祝福が豊かにありますように。(千葉県市原市…クラレチアン宣教修道会)

◇主の降誕のお祝ひを申しあげます。今年こそ

世界に平和が訪れますように。主のお助けを祈ります。 (東京都狛江市…嶋田 淳子)

◇異国の地にイエス様(よき訪れ)をもたらすために献身されるシスターの皆様には敬意を表します。シスター方の手を通して一人でも多くの方が神の救いと命の喜びに与ることができますように。シスター方のご健康のためにもお祈り申し上げます。

(栃木県那須町…那須トラピスト修道院)

◇ノビスの頃からほんとうに熱心に働いておられた Sr. 奥田の韓国でのご活躍を伺いきずな誌に励まされた1年になりました。感謝をしています。 (匿名希望)

◇161号 Sr. 奥田様のお便りから、自然界の命の恵みに対する感謝や敬意を忘れがちな日々の消費生活の態度に気づかされ、深く反省致しました。 (神奈川県藤沢市…竹脇 美帆子)

◇皆様が心温まるクリスマス&新年を迎えられますように(宮崎県延岡市…重黒木 まゆみ)

◇イエス様の御言葉を日々実行しておられる宣教師の皆様の上にイエス様の豊かな祝福をお祈り申し上げます。と共に新年には希望をもって

迎えることが出来ますように、お祈り申し上げます。 (匿名希望)

◇海外で尊いお働きをなされておられます皆様には感謝申し上げるばかりです。

(東京都世田谷区…荒川 ひろみ)

◇海外で困難な状況の中宣教に捧げていらっしゃる神父様、シスターの皆様どうぞお元気に佳きご降誕と新年をお迎え下さい。(匿名希望)

◇良いクリスマスとなりますように。

(福島県二本松市…カトリック二本松教会)

◇クリスマスに寄せてシスター、神父様の活動にわずかですが、お使いください。

(東京都世田谷区…細川 理香子)

◇いつもきずなをありがとうございます。皆様のご活躍とご健康をお祈り申し上げます。

(北海道札幌市…北26条教会)

◇海外で宣教に励んでおられる皆様のお姿をいつもきずなを通して読ませていただいております。神様のめぐみと共に大きな祝福がありますように祈っております。

(東京都中野区…ベタニア修道女会)

聖バルナデッタ第一修道院)

## 訃報

**急逝された運営委員、波多野光男さんのために祈ります。**

「いのちの源である神よ、今わたしたちは心をつにして亡くなったヨゼフ波多野光男のために祈ります。彼に永遠の安息を与え、終わることのないいのちで満たしてください。地上に残されたわたしたちも、生涯の旅路の果てに彼と再会し、いつまでもあなたを賛美することが出来ますように。わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン。」

会長 村上芳隆神父 (ofm.)

**運営委員・波多野光男さんの帰天**

2004年ごろこの会に参加され、昨年まで在籍していただきました。

昨年9月の運営委員会にはリモートで参加されておりました。わずか数か月後の2022年12月7日帰らぬ人となりました。会議には運営委員として毎回出席され、寡黙ながら重要なことは指摘して下さる方でした。大切な委員を一人、また一人と失って、立ち上がるのに時間がかかるようになって参りましたが、再び天で波多野光男さんとめぐり逢い共に神に祈ることが出来ると信じております。波多野光男さん今までありがとうございました。

2023年2月7日

日本カトリック海外宣教師を支援する会事務局長

# 「宣教者のお話を聞く会」

日時：2022年11月19日 土曜日

10時～11時半 リモートにて

講演者：東京大教区 菊地 功 大司教

## 「皆でともに歩む（シノドス）・出向いて教会であるために」(要約)

いま教会全体で取り組んでいるシノドスについて、少し考えてみたいと思います。

バチカンのシノドス事務局が用意した資料には、教皇様のこういう言葉が記されています。

「シノドス性とは現代における神が望まれる教会であるための道です。それは聖霊の声と一緒に  
なって耳を傾け識別する動きです」

2021年の10月に始まり、2024年まで続くことになっている今回のシノドスは、一過性のイベントではなく、教会のあり方そのものを見つめ直し、「神が望まれる教会である」道を見いだすことを教会における「当たり前」にするために行われています。

### 1：わたし自身のアフリカでの体験

シノドスについて語る前に、わたし自身の人生での大きな体験についてお話しします。

わたしは1986年に司祭に叙階されてすぐに、西アフリカのガーナへ派遣されました。ガーナで過ごした8年間のうちの7年は、山奥の電気も水道もないような村の主任司祭を務めていました。村にはわたしの車が一台あるだけですし、雨期になれば道路は泥沼となり、唯一の公共交通機関である乗り合いトラックも自由に通行できなくなります。

わたしの担当する小教区には20を超える巡回教会がありました。それを一人で担当していましたが、なかには車では到達できない村もあり、ジャングルの中を延々と歩いて行かなくてはならないこともしばしばでした。自家用車はもちろんのこと公共交通機関も十分ではない地域ですから、小教区を中心となる教会で皆が集まるのを待っているわけにはいかずに、こちらから周囲の村へ出掛けていかなくてはなりません。

村で暮らす人にとっては、経済的な問題や病気など、ありとあらゆる困難があったと思います。いまは少し改善したものの、80年代のガーナは経済的にもどん底でした。村の多くの人は農民でしたから、現金収入がほとんどありません。貧困という言葉はこういった現実を表現する言葉なのだと、肌で学ぶ毎日でした。

しかしそのような困難な中でも、多くの人は毎日をにこやかに楽しく生きておられました。こんなに困難な中で、どうしてそんなに楽天的に生きられるのかを尋ねたことがあります。彼らの答え

はいつでも必ず、「ガーナマジックがあるから」でした。

生活が楽になるような魔術（マジック）が、本当にあるわけはありません。彼らが何を言いたかったのかというと、どんなに困っていても、のたれ死ぬことはない。見捨てられることはない。必ず誰かが助けてくれる。もちろん大家族制度による互助もありましたが、それ以上に、困っている人を見捨てない文化と伝統がありました。それが「ガーナマジック」だと言うことでした。

いまの言葉で言うならば、「連帯への確信が生きる希望を生み出す」と言うことでしょうか。誰かが自分のことを思ってくれる、誰かが必ず助けてくれる。その確信は、困難の中でも生きる希望を生み出します。

## 2：教皇訪日、連帯が生み出すいのちを生きる希望

2019年11月に教皇フランシスコは日本を訪れました。教皇様は11月25日、東京カテドラルで青年たちと出会いましたが、その青年たちの中に、10名ほどの難民の青年たちが混じっていました。一番前の列に並んで座ってもらったので、入場してきた教皇様は、難民の青年たちと親しく言葉を交わし、中にはスマートフォンで教皇様とのツーショット・セルフ写真を撮影した青年もいました。

この時のカテドラルでのメッセージで、教皇様はこう言われました。

「さて、とくにお願ひしたいのは、友情の手を広げて、ひどくつらい目に遭って皆さんの国に避難して来た人々を受け入れることです。数名の難民のかたが、ここでわたしたちと一緒にいます。皆さんがこの人たちを受け入れてくださったことは、あかしになります。なぜなら多くの人にとってはよそ者である人が、皆さんにとっては兄弟姉妹だからです」

教皇様は、難民の人たちに優しくしてくれた行動に対してだけ感謝しているのではなく、それ以上に、この難民の青年たちが自分たちの兄弟姉妹であることを証する行動を、集まった青年たちがとったことに感謝されたのです。単なる優しさではなくて、連帯の内に支え合うことが生きる希望を生み出すと言う確信を実践した行動に、教皇様は感謝されました。

ご存じのように第二次世界大戦後、難民や国内避難民など、いのちを守るために故郷を旅立ち保護を求める人の数は増加を続け、毎年最高を記録し続けています。国連難民高等弁務官事務所によれば、2018年に世界中で七千万人ほどであった何らかの理由で避難を余儀なくされ保護を必要とする人の数が、ウクライナでの戦争などが起こっている現在、すでに一億人をはるかに超えています。

教皇フランシスコは2013年の教皇就任後すぐに、地中海に浮かぶイタリア領の島ランペドゥーザを訪問され、アフリカからの難民たちと出会いました。ランペドゥーザがアフリカに一番近いヨーロッパであるため、地中海に乗り出して逃げてくる難民が大挙して押し寄せていました。なかには命を落とす人も少なくありません。

このときのミサの説教で、教皇様はこう言われました。

「居心地の良さを求める文化は、私たちを自分のことばかり考えるようにして、他の人々の叫びに対して鈍感になり、見栄えは良いが空しいシャボン玉の中で生きるようにしてしまった。これが私たちに、はかなく空しい夢を与え、そのため私たちは他者へ関心を抱かなくなった。まさしく、これが私たちを無関心のグローバル化へと導いている。このグローバル化した世界で、私たちは無関心のグローバル化に落ち込んでしまった」

連帯による支え合いとは対極にある無関心のグローバル化。自分たちの安全とむなしい繁栄を守ることにばかりに心を奪われ、他者の苦しみに目を向けようとしない世界。教皇フランシスコは、教皇就任直後からいまに至るまで、つねに連帯のうちにともに歩むことの重要性を強調し続けています。

2019年11月25日に、東京で東北の被災者の方々と出会ったときにも、こう話されました。

「一人で「復興」できる人はどこにもいません。だれも一人では再出発できません。町の復興を助ける人だけでなく、展望と希望を回復させてくれる友人や兄弟姉妹との出会いが不可欠です」

教皇様は、新型コロナの感染症が世界に蔓延したとき、そのはじめから、この状況からより良く抜け出すためには、連帯の内に支え合うことしか道はないと強調されています。

### 3：ともに歩むシノドスの道へ

パンデミックの初期、2020年9月に、教皇様はこう言われています。

「この危機から、以前よりよい状態で脱するためには、ともに協力しなければなりません。独力ではなく、協力するのです。独りでは決してできないからです。一緒に協力するか、さもなければ、何もできないからです。わたしたち全員が、連帯のうちに一緒に行動しなければなりません。調和のうちに結ばれた多様性と連帯、これこそが、たどるべき道です」。

教皇様は、「調和のうちに結ばれた多様性と連帯の重要性を強調されていますが、しかしご存じのように、現実にはその全く反対の道を歩んでいるのが、現代世界です。

わたしたちは、創世記の2章18節にあるように、互いに助け合う者となるためにいのちを与えられています。ですから、連帯の内に互いに支え合うことは、わたしたちの優しい性格の賜物なのではなく、いのちを生きる者にとっての責務であります。

こういったことを前提として、教皇様は、教会における「調和のうちに結ばれた多様性と連帯」の実践をめざして、シノドスの道を歩むことを決断されました。

第二バチカン公会議は、教会とは、神との交わりと全人類の一致を目に見える形で表す存在として、世の光、地の塩として、いのちと希望をもたらすためにこの世界に派遣されている神の民であると強調しています。わたしたちは一緒になって旅を続ける一つの民であり、その中心には主ご自身が常におられます。主とともに歩む神の民は、人類の一致の見えるしるしとして、いのちを生き



連載

## 「海外宣教」

新しい年を迎え、宣教師と共に歩んでくださっている「きずな」の読者の皆さんへ

# サレジオ会創立者の夢みた宣教と 今、世界の周縁に出掛けていく教会

マリオ 山野内 倫 昭 さいたま教区司教

1月の最後の主日の29日、私は、東京の碑文谷教会で、多くのサレジオ会員、サレジアンファミリーと一緒に、聖ドン・ボスコの記念日を祝いました。説教では、聖ドン・ボスコがアルゼンチンで追いかけた宣教の夢について触れました。

### 聖ドン・ボスコの預言的な呼びかけ：「急いでパタゴニアに行きなさい」

アルゼンチンに到着したサレジオ会員たちは、イタリアからの移民が数多く住んでいた小教区に派遣されました。宣教師たちの一つのグループはさらに離れた北の町に送られました。小さな学校の世話をするためでした。しかし、聖ドン・ボスコは宣教師たちがパタゴニアに到着するまで安心できませんでした。なぜなら彼は、アルゼンチン政府がその広い土地からインディオを追い出し、地図から消し去ろうとしているとの情報を得ていたからです。

聖ドン・ボスコが願っていたのは、インディオたちをその土地の所有者として守ること、アルゼンチン政府が彼らの土地を奪い取り、パタゴニアから彼らを追い出さないことでした。そこで、パタゴニアに着くや直ぐにアルゼンチン政府との対話を始め、彼らがすべての権利を持つアルゼンチン人となるようにしたのです。

サレジオ会員たちは現地の人たちが市民として不正から守られるようにと願い、子どもたちの教育を始め、専念しました。学校や診療所がつくられ、現地の言葉の辞書が作成されました。修道者や司祭召命の受け入れがあり、その一人がインディオの頭であったマヌエル・カルフクーラの息子でした。彼はサレジオの神学生になり、2007年、教皇ベネディクト16世によって列福されました。地元の地主たちに土地を奪われないようにするための戦いは現在に至るまで続き、教会は彼らの側にいます。

カトリック教会の宣教の歴史の中に残された多くの負の歴史、たとえば、昨年夏、露わとなって、世界を驚かせたカナダ宣教時の「先住民」たちに対して行った虐待行為のことなどを想起するとき、このような聖ドン・ボスコの宣教の姿は私の心を強く打つものです。

### 教皇様の出向いて行かれるところ

去る1月31日、教皇フランシスコはコンゴ民主共和国を訪問されました。教皇を迎えたモロッコのラハブの大司教のコメントに、私は注目しました。「教皇様は、誰もそこに足を運び

たくないアフリカの闇の心臓部を訪れた。教皇様は車椅子で、ときに杖を持っていました。それは膝の痛みが少しずつ回復しているから。どうしてそこまでするのでしょうか。(中略)私の解釈では、教皇フランシスコは言葉だけでなく、模範を示すことを通して宣教したいからだと思います。教皇様は、訪問先を選ぶ時にはペリフェリア(周縁)に出向いていく教会でなければならないことを示されています。」(クリストバル・ロペス大司教 sdb)

今年は、特に教皇フランシスコがコンゴ共和国と南スーダンに出向いて行かれた姿、福音宣教の熱意に私たちも燃えながら、日本から海外へ派遣されている宣教者たちのために、皆さんのお祈りと協力を願います。

私は、海外で今日も福音の宣教に献身しておられる宣教者の皆さんのことを思うにつけ、海外ではなく、私たちの身近にあり、私たちが必死に待っている方々のいる「辺境」のことを想わずにはいられません。

福音宣教の保護者で幼いイエスの聖テレジアを通して皆さんの上に神様の豊かな祝福を祈ります。

## 新運営委員紹介

### イエスのカリタス修道女会 谷口美帆

この度、日本カトリック海外宣教者を支援する会の運営委員として海外宣教者へのお手伝いをさせて頂くことになりました。どうぞよろしく願いいたします。さて先日、海外宣教について考える出来事がありました。昨年12月に私の共同体のシスター大山が帰天しました。シスターの同期にブラジルで宣教活動を50年以上続けているシスター赤塚がおります。10月の末頃に、シスター大山の容態が思わしくなかったため、日本に一時帰国していたシスター赤塚に声をかけ、一緒にお見舞いに行きました。コロナ禍で基本的には面会はできなかったのですが、許可をもらい会うことができました。何年ぶりの再会かはわかりませんが、2人は涙を流して喜んでいました。そしてシスター赤塚が

「シスターがベッドの上で病気の苦しみを捧げて下さっているから、私は宣教ができるのです。本当にありがとう」と手を握り締め語り掛けていました。それから他の同期のシスターたちから預かってきた手紙やメッセージを読み上げながら、聖なる交わりの時が過ぎていきました。最後に「次は天国で会いましょう。お祈りしています。」と別れました。そしてシスター赤塚は11月に再びブラジルへと旅立ちました。私は修道者の姉妹愛の美しさ、海外宣教者として生きるシスターの覚悟を見ることができ、その時を共有できたことを神様に感謝しました。そして海外宣教について気付きを頂きました。私は海外宣教と聞くと、実際に海外で宣教する人のみを連想していましたが、シスター赤塚の言葉から、ベッドから動くことができなくても実際に海外に行くことができなくても、海外宣教者の方々と思いを一つにし、祈り、(P20へ続く)



支援することによって、彼らの手を通して共に宣教することができるということです。聖書に次のように語られています。「わたしたちの一つの体は多くの部分から成り立っていても、すべての部分が同じ働きをしていないように、わたしたちも数は多いが、キリストに結ばれて一つの体を形づくっており、各自は互いに部分な

のです」(ローマ書 12 章 4～5 節) 海外宣教は、海外の人々とその人々と共に生きる人とそれを支える人とそれぞれの部分で成り立ち、キリストに結ばれて一つになるのです。これから日本カトリック海外宣教者を支援する会を通して海外宣教者の方々と心を合わせて共に頑張りたいと思います。

## 新入会員 (敬称略)

個人会員 4名

丸田 美樹 (大阪府大阪市) 白鳥 恵美子 (静岡県静岡市) 匿名希望 (2名)

### 事務局より

- ◎コロナ第8派は静かに下降線をたどっています、このまま5月にはマスクのない生活に戻れることを祈ります。
- ◎早いもので今号をもちまして2022年度が終わり、4月からは2023年度が始まります。次年度も皆様のご協力をお願い申し上げます。
- ◎ご家庭に眠っています未使用の切手やはがきをお送りください、通信費として大切に使用させていただきます。2022年度も様々な方が送っていただきました。感謝。
- ◎事務局に新しくアルバイトのスタッフを迎えました。協力して効率の良い仕事をこころがけたいと思います。余語洋子さん宜しくお願いします。
- ◎2月6日トルコやシリアに起きた地震でのおびただしい死者、ウクライナ・ロシアの戦争死傷者、ともに心に重くのしかかって来ます。被災された方々の1日も早い復興と戦争の即時停止を願います。
- ◎今年の復活祭は4月9日です。イースター献金もお待ち致しております。

### 発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112  
日本カトリック海外宣教者を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会